

5. SR 精神および行動の障害 (F20 統合失調症)

文献

Broderick J, Vancampfort D: Yoga as part of a package of care versus standard care for schizophrenia. *Cochrane Database Syst Rev* 2017 Sep 29(9): CD012145. PMID:28960019

1. 背景

ヨガはインドで生まれた古代の精神修養法であり、現在、西洋ではリラクゼーションやエクササイズの一つとして受け入れられている。統合失調症患者にとっては、標準的な治療法と比較して、パッケージケアとして提供されるヨガの有効性を判断することに関心が持たれている。

2. 目的

統合失調症患者に対するパッケージケアとしてのヨガの効果を、標準的なケアと比較して検討する。

3. 検索法

MEDLINE, PubMed, Embase, CINAHL, BIOSIS, AMED, PsychINFO, および臨床試験の登録機関を定期的に検索した Cochrane Schizophrenia Group Trials Register (最新 2017 年 3 月 30 日) を検索した。すべての対象研究の参考文献を検索した。登録に記録を含めるための言語、日付、文書タイプ、出版状況の制限はなかった。

4. 文献選択基準

統合失調症患者を対象とした無作為化対照試験 (RCT) のうち、パッケージケアとしてのヨガと標準ケアの対照群を比較したもの。

5. データ収集・解析

レビュー執筆者は、独立して研究を選択し、品質評価を行い、データを抽出した。二値データについては、ITT (intention-to-treat) ベースで、リスク差 (RD) とその 95% 信頼区間 (CI) を算出した。連続データについては、グループ間の平均差 (MD) とその CI を推定した。解析には、混合効果モデルと固定効果モデルを用いた。異質性の検討 (I² 法)、組み入れられた研究のバイアスのリスク評価を行い、GRADE (Grading of Recommendations Assessment, Development and Evaluation) を用いて「所見のまとめ」の表を作成した。

6. 主な結果

このレビューには 3 つの研究が含まれている。すべての結果は短期 (8 週間未満) であった。使用可能なデータが報告されたのは、早期離脱と QOL の 2 つのアウトカムのみであった。生活の質のエンドポイントスコアについては、ヨガパッケージを支持するいくつかの証拠があった (1RCT, n=80, MD 22.93 CI 19.74~26.12, 低質証拠)。早期に研究を終えると、治療群間でデータが不明確になった (3 つの RCT, n=193, RD 0.06 CI -0.01 から 0.13, 中質の証拠、高い不均質性)。全体的に、このレビューでは、精神状態や全般的状態、社会的機能、身体的健康、副作用、医療費などの主要なアウトカムの欠落が非常に多く見られた。

7. レビュアーの結論

このレビューには、少数の小規模な研究が含まれており、これらは多くの主要なアウトカムを欠いていた。データが少ないため、標準的な治療と比較して、パッケージケアとして提供されるヨガが有益であるかどうかを、ある程度確実に述べることができない。

8. 要約者のコメント

データ数も少なく、主要なアウトカムも無いものが多いため、ヨガが統合失調症患者にとって有益かどうかははっきりしない。更なる研究が多くなされる必要があると考える。

池田聡子 岡孝和 2021 年 4 月 19 日